

表彰者代表挨拶

この度は、2019 年 6 月に行われた G20 大阪サミットでの通訳ボランティアとしての活動に対し、学長顕彰をいただくことができたことを大変嬉しく思います。また、ご多忙の中このような場を準備していただいたことに大変感謝をしております。

思い返せば 2019 年の初め頃、私がアメリカに留学中のことでした。何かに導かれるように府大ポータルを開きました。そこで G20 サミットの学生通訳ボランティアを募集しているという投稿を発見しました。初めて見たとき、G20 という世界が注目する大きな舞台で私のような学生が果たして通訳という大きな仕事を果たすことが出来るのかという不安を感じました。しかし、留学先で様々な国の人と会い、話をし、自分の英語力もかなり向上したと感じていたので、不安以上にこの貴重な機会を逃してはいけないという気持ちが勝りました。また通訳ボランティアとして選ばれるために学内で面接を受ける必要がありましたが、学生課の担当の方とは昨年行われた国際交流関係のプログラムでやり取りしていたこともあり、現地からオンラインで面接を受ける等の対応をスムーズに行っていただきました。このように、今までの活動で知り合った方々に助けていただき、学生通訳ボランティアとして選ばれました。

通訳として選ばれた後に行われた事前研修では、国際問題に関心を持つ多くの学生と話をすることが出来、また外務省の方の話を聞く機会もあり、大きなイベントという感覚が大きくなっていきました。なお、研修の際に G20 推進協議会の方よりお声がけをいただき、本番前に大阪府庁舎で行われた結団式において、新聞やテレビといった報道関係の方からの取材対応をすることになりました。結団式の際は囲み取材を受け、それがテレビや新聞で報道された後は多くの友人から反応がありました。

そして迎えた本番、警察車両が数多く周辺を取り巻く中、会場であるインテックス大阪へと向かいました。中に入るのにも荷物検査や許可証のチェックが何度もあり、厳戒態勢でした。私たち学生通訳ボランティアの仕事は、世界中から取材にやってくる記者の方と日本の各ブースの担当者との間の通訳の仕事でした。なので、各国の首相や大統領に会うことは出来ませんでしたが、事務局の方が「君たちがいる隣の部屋で世界情勢が動いている」と仰ったのが印象的でした。私の担当していたブースは関西の企業がロボット技術を紹介しているものでしたが、最初は人があまり来ませんでした。そこで、留学経験から学んだ諦めない気持ちを思い出し、積極的に声をかけ続けると、人が少しずつ来始めました。最終的にはかなりの方がブースに来られ、たくさんの通訳をすることが出来ました。

今回の G20 サミットでの通訳ボランティアや留学の経験を通して、もっと世界に出てみたい、世界中のあらゆる国の人と仕事がしたいという気持ちがさらに強くなりました。現在は空飛ぶ車を実用化することに関心があり、研究では空飛ぶ車の運航コースの検討を行っております。この分野では日本以上に欧米の国々で開発が進んでおり、将来的に海外で働く機会もあるのではないかと思います。世界中で働きたい気持ちと研究への情熱を大切にしながらも、常に謙虚で感謝を忘れず、出来る限り多くのことを大学に居るうちに勉強したいと考えています。今回、G20 サミットでの通訳ボランティアをするにあたり支えていただいた学生課、広報課、国際交流グループ等の大学の関係者の皆様をはじめ、両親、さらに日本だけでなく世界中にいる友人への感謝をもって、受賞者代表挨拶に変えさせていただきます。

2019 年 11 月 1 日 工学研究科 航空宇宙海洋系専攻 航空宇宙工学分野 塩川健斗